

CAMPUS TOPICS



陸上部の川崎聖子さん(左)と坂田知穂さん

SH 高等学校

陸上部の川崎聖子さんが国体で優勝 ソフトボール部選手も活躍

静岡県で開かれた第58回「わかふじ国体」秋季大会。昨年10月25日(30日開催)で、1年の川崎聖子さんが陸上少年女子B200Mで優勝。大会3日目、愛知県勢最初のVとして、新聞やテレビ

大きく報道されました。準決勝を全体で2番目のタイムで通過して決勝に臨んだ川崎さんは、谷口深先生の指示通り、直線の入口で先頭に立つと一気にゴールを駆け抜けました。顧問

の大津賀先生は、大会前から、彼女は必ず優勝する」と強気の発言をしていましたが、予想通りの結果となりました。川崎さんは400mリレーでも3位に入りました。陸上部からは、1年の坂田知穂さんも少年女子B800mで第5位に入賞しました。

また、本校ソフトボール部の3年馬淵朝子さんと阿部裕美さんがソフトボール少年女子の愛知県代表として参加。馬淵さんは3番ショート、阿部さんは4番サードと、重要なポジションで活躍しました。愛知選抜チームは、準決勝で神奈川チームを1対0で破って決勝に進出。しかし3年連続7度目の優勝をねらう埼玉チームに0対1で敗退し、準優勝となりました。本年度の国体では本校のクラブが大活躍しました。生徒たちを育てた顧問やコーチの先生方、ご苦労様でした。



愛知県庁で神田知事(右)から表彰される長谷川副校長

JH 中学校

42年間淑徳一筋の長谷川勝宏副校長が愛知県知事より表彰

11月26日、長谷川勝宏副校長が平成15年度私立学校教員表彰を受けました。これは愛知県内の私立学校で30年以上教壇に立ち、すぐれた教育活動を展開した教員に与えられるもので、神田真秋知事から表彰状が贈られました。長谷川先生は昭和37年に愛知淑徳中学校に新卒で入って以来、42年間にわたって、淑徳での教職一筋(長谷川先生)で来ました。この間、中3学年主任(昭和51年)、教務主任(53年)、高校の進路指導部長(59年)、生活指導部長(平成2年)を歴任し、平成6年から中学校副校長として現在に至っています。

淑徳での42年間、第一次ベビーブーム終息後の生徒減少期、第二次生徒急増期突入による私学の



追いついた時代、そして少子化の現在と、長谷川先生は私学と子どもたちを取り巻く社会の変化を肌身で感じてきました。そんな中、現在の淑徳中学校の躍進をもたらした中学校改革の施策を、望月前中学校校長の下で行ってきました。たとえば私立中学校の複数受験の道を拓いた土日入試の実施、2科目入試の導入、学則定員や募集定員の変更、国・数・英科目の前倒しの授業の実施などです。

「望月先生の指導力に薫陶を受けたながら、一定の手伝いはできたかなと思います(長谷川先生)」。こうした数々の施策により、愛知淑徳中学校は県内でトップクラスの私立中学校として認知されるようになってきました。最近では学

校5日制に伴う新教育課程の開始や2・4科選択制入試の導入、いったん中断していた英数の習熟度別授業再開など、入試制度や学習内容はさらに進化し続けています。長谷川先生は今後の課題として、現在、淑徳中学校は生徒や保護者から進学校としての位置付けが期待されていますが、そのためには今後、学習指導を中心にしながら、社会のあり様が変化

する中で、生徒の心を強くすることも必要だと思えます」と話し、この42年間を、「必ずしもいい時期ばかりではありませんでしたが、全体としては上り坂でこられたかなと思えます」と振り返っていました。

塩田明彦監督を招き、文化創造フォーラム開催

U 大学

今年度2回目の文化創造フォーラムが11月30日(日)に星が丘キャンパスで開催されました。今回は、最近「黄泉がえり」を大ヒットさせた映画監督、塩田明彦氏を招き、映画上映とトーク・ショーを行い

ました。これまで、「月光の囁き」「どこまでもいこう」「害虫」など、少年少女を主人公とした鋭い心理ドラマを数多く撮ってきた塩田監督は、一方で、東京の映画美学学校で講座を持ち、後輩の育成に努めています。今回のトーク・ショーでも、映画における音の役割、人物像の提示の仕方、カメラアングルの設定法など、専門的な技術についてわかりやすく解説していただきました。また、さまざまな質問に一つひとつ丁寧に答えていた監督の誠実な姿に、学生たちもとても親しみを感じたようでした。なお、今回のフォーラムは今池の映画館シネマテークとの共同企画として実現したものです。



愛・地球博の電光看板点灯式で BREATHが聖歌を披露

この時の様子は、12月4日付けの中日新聞等でも写真入りで紹介されました。なお、愛・地球博をPRする電光看板は、博覧会閉幕まで毎日、日没後30分後から23時まで点灯されています。

会プレスが、2005年日本国際博覧会(愛・地球博)関連のイベントに出演しました。

12月3日、博覧会協会が入居するビル(中村区名駅3丁目)の外壁に7m四方の大型電光看板が設置され、愛・地球博のメッセージ、モリゾー&キョロの絵が浮かび上がる点灯式が行われました。

大学の有志による混声合唱団から平成14年に結成された同好



明治村でのテレビCM撮影風景



新学部、新研究科を メディアで大々的に告知

「伝統は、たちどまらない。」
本年4月に、ビジネス学部・医療福祉学部・大学院・文化創造研究科を開設する本学が展開した広報活動のキックオフです。1905年に愛知淑徳学園が誕生し、新しい女性の生き方を模索した第1章/男女共学の総合大学へ「名門」が広く開かれた第2章/高度研究と実践教育の融合、さらなる発展への第3章。約1世紀にわたる愛知淑徳学園の軌跡と「たちどまることがない」発展をイメージしてみました。11月30日の新聞全面カラー広

告を皮切りに、地下鉄・私鉄・JRの電車内や各駅でのポスターの掲示など公共機関での告知を行なうとともに、本学のホームページにも掲載しました。テレビCMでは、本学園と同じ1905年に誕生した夏目漱石の『我輩は猫である』を織り込みながらストーリーを構成し、明治村の夏目漱石邸での撮影を中心に制作されました。本学のCMについて、快いお返事をいただきました夏目家の皆様やご協力いただいた関係者に、心から御礼申し上げます。

11月14日、高1の総合学習の一環として、「アジアの女性と子どもネットワーク(AWC)の代表、マリ・クリスティーンさんが講演会が、本学記念講堂で開かれました。

マリさんは上智大学在学中から芸能活動を始め、7か国語という堪能な語学力を生かして、コンサート司会やテレビ、ラジオにも出演。1994年に東京工科大学博士課程を修了後、タイ旅行をきっかけにボランティア団体AWC(本部は横浜市)を立ち上げ、タイの貧しい女性や子どもたちの買春被害などを全国で訴えています。2000年には国連ハタラト親善大使に就任、また05年開催の「愛知万博」の広報プロデューサーも務めています。

秋のオープン キャンパス開催



11月3日(祝)、秋のオープンキャンパスが開催されました。大学祭と同時に開催で、本学希望の受験生を対象に、長久手・星が丘の両キャンパスで実施。来場者は、雨天にもかかわらず、昨年度より約400人増加の1053人を数える盛況ぶりでした。いよいよ受験シーズン到来で、教員と話ができる最後のオープンキャンパスということもあり、試験を目前に控えた受験生が、各学科・専攻相談コーナーや入試相談コーナーに長い列を作りました。また、各キャンパスの施設を見学するキャンパツアーは、その充実ぶりに参加者から感嘆の声があがりました。特に、星が丘キャンパスは今年4月から新しい校舎になり、施設もますます充実することでしょう。今年4月開設のビジネス学部と医療福祉学部の質問も多く、新たな分野に興味深く聞き入る受験生の姿が印象的でした。

今回の講演会は、本学にさまざまな面で協力していただいている大須ロタリーが創立20周年を迎えたのを機に、マリさんの講演会を開催することになりました。生徒にとっては社会的視野を広げることのできた意義深い講演会でした。

AWC代表の マリ・クリスティーンさんが 講演



講演会には高1全員(400名)と父母も参加し、約1時間にわたって行われました。当日は数社のテレビ局が取材に訪れ、生徒たちは最初緊張した面持ちでしたが、マリさんが語るタイの子どもの悲しい売春の現状と、日本の加害者としてのあり方などの話に深い感銘を受けた様子でした。特に、世界中に散らばるボルノやマンガ雑誌の8割が日本で出版されているにも関わらず、「表現の自由」のために取り締まりが十分でなく、99年によく特別法が成立したという話には、非常に関心を抱いたようでした。最後に生徒が質問に立ち、「日本政府はなぜ、99年まで取り締まりの法律を成立させることができなかったのか」「今、自分たちにできることは何か」などの発言がありました。



CAMPUS TOPICS



大学

文化創造学部 清水良典教授が 「山中湖フォーラム」に パネラーとして参加

11月8日(土)～9日(日)にかけて、山梨県山中湖村において、同村と「三島由紀夫文学館」の共催で、「山中湖フォーラム2003 三島由紀夫の現代的意味」が

バトン部が 7年連続で 全国大会へ進出



中学校

11月23日に行われたバトントウリング東海大会で、中学バトン部は金賞を受賞し、全国大会出場を決めました。東海地区から全国大会に進出する他の4チームは恵まれた環境で練習できるクラブ



開かれました。三島由紀夫の著作は無論のこと、貴重な原稿やノート等の資料を多数収蔵する「三島由紀夫文学館」は、全国的にも大変レベルの高い文学館として注目されています。

毎年一度、三島由紀夫の文学をテーマに開かれてきた「山中湖フォーラム」に昨年は、文化創造学部の清水良典先生がパネラーとして参

チームです。我が校のバトン部は練習場所や時間の制約がある上、50人という大人数で演技を行わなければならないと不利な条件の中での大健闘でした。

大会の演技直前、緊張のために泣き出しそうになうてしまう生徒や、固くなってしまう生徒が何人もいたため、どうなることかと心配でした。しかし、いざ演技が始まると、最高の笑顔で最高の演技を行うことができ、観客からも歓声が上がっていました。

現在、バトン部は最高のメンバーが全国大会に向け、一つになっていきます。きと全国大会でも好成績を残してくれるだろうと期待しています。

加しました。他のパネラーは、文芸評論家の加藤典洋氏と、マンガ編集者で評論活動も盛んな大塚英志氏という豪華な顔触れ。各パネラーの演題は加藤氏が「仮面の告白」について、大塚氏は「三島由紀夫とサブ・カルチャー」、そして清水先生は、「三島由紀夫の文章術」で、それぞれ三島由紀夫の現代的意味について鋭く活発な議論を繰り広げました。一日二日の行事だったにもかかわらず、会場には全国から三島文学ファンが詰めかけ、熱心にパネラーの発言に耳を傾けていました。

ボランティアサークル 「つくしの会」が 愛知県より表彰



大学

8月21日、ボランティアサークル「つくしの会」が、知的障害者施設での6年間にわたる保育補助の活動を認められ、愛知県から感謝状を受けました。

つくしの会は6年前、発達に遅れのある子供たちの療育施設、す

高1・高2を対象に 性教育講演会を 開催



高等学校

毎年冬、本校では高1、2年生を対象に、外部から講師をお呼びして、「性教育講演会」を開いています。本年度は12月5日、高1は新しく始まった、総合的な学習の時間」を利用して、高2はホームカ

くすく園(日進市)から依頼を受けたコミュニケーション学部コミュニケーション心理学科の江口昇勇教授が学生に呼びかけて結成。36人のメンバーが月に1～2回、同園を交代で訪れ、遊びを交えた学習の補助を行っています。

2年生から参加した加藤達人さんはこの活動の廣になり、昨年の大学卒業後、保育士になることを決意。現在は資格取得を目指して勉強を続けながら、民間の障害児専門の学童保育などのアルバイトをする一方、すくすく園にも個人的に週2回、自宅の尾西市から片道2時間かけて通っています。「子供相手で力仕事も多いので、保育士の先生に感謝されることもありますが、勉強させていたただいているのでありがたいです」と

感謝状を持っているのが加藤さん



加藤さん。将来の夢を、「子供たちが将来、自立とまでは言いませんが、社会に最低限度応ずることができるようにお手伝いができればいいなと思っています」と語ってくれました。

△の時間に実施しました。高1は例年通り、一橋、津田塾、早稲田、東京女子、福島の各大学の講師を兼任されており、著作も多数出されている村瀬幸治先生に、高2は国際保健、特にHIV/AIDSの研究者である日本福祉大学社会福祉学部保健福祉学科助教授の林素子先生に、講師として来ていただきました。村瀬先生には、高校生の性今の時代、何を学び、どう生きるか」と題して約1時間半、林先生には、若者の性行動とエイズ、自分の性は自分で決める」と題して約1時間のお話をさせていただきました。生徒は身近な問題だけに、真剣に聞き入っていました。